

平成 19 年 3 月 15 日

平成 18 年度病虫害発生予報第 12 号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
麦 類	うどんこ病	並	並
トマト	黄化葉巻病 疫病 灰色かび病 コナジラミ類	やや少 やや多 並 やや多	やや少 やや多 並 やや多
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 やや多 多 並 やや多 やや多	並 やや多 多 並 やや多 やや多
たまねぎ	白色疫病 ボトリチス葉枯症 ネギアザミウマ	やや少 少 やや多	やや少 少 やや多
いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類（注意報第 11 号継続）	少 少 やや少 多	少 少 やや少 多
かんきつ	かいよう病（防除情報第 12 号） そうか病 ミカンハダニ	多 （越冬病斑） やや少 （越冬病斑） 並	やや多 やや少 並
果樹共通	クワゴマダラヒトリ （防除情報第 13 号）	やや多	やや多
茶	カンザワハダニ （注意報第 12 号）	多	多

【発生予報】

本文の（ ）内は平年値

麦 類

うどんこ病

（ 1 ）予報内容

発生程度 並

（ 2 ）予報の根拠

ア 3 月上旬の巡回調査（大麦 9 筆、裸麦 6 筆、小麦 15 筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ 3月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病株率は0.0%（前年0.9%、前々年0.5%）、発生圃場率は25.0%（前年25.0%、前々年33.3%）であった。

2. 疫病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病株率は0.0%（0.0%）、発生圃場率は16.7%（2.0%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。

3. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病果率は0.4%（0.2%）、発生圃場率は16.7%（25.1%）であった。

4. コナジラミ類（外コナジラミ類、ワシツコナジラミ）

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、寄生株率は1.7%（0.6%）、発生圃場率は33.3%（12.6%）であった。

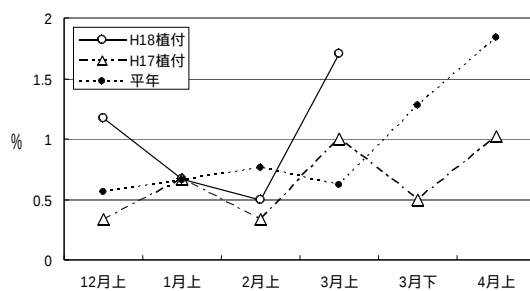


図 トマト コナジラミ類寄生株率の推移

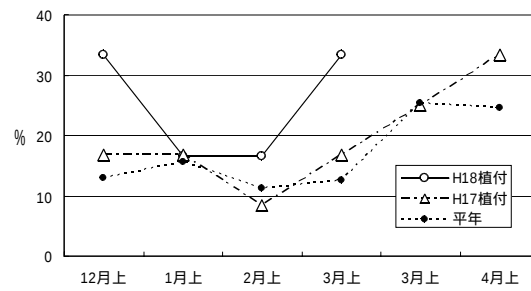


図 トマト コナジラミ類発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなるとすす病の原因となるので、発生初期に防除する。

イ タバココナジラミ類はトマト黄化葉巻病を媒介するので黄色粘着板等で発生状況を把握し防除に努める。

きゅうり

1. ペと病

(1) 予報内容

- 発生程度 並
- (2) 予報の根拠
- 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は8.7%(6.1%)、発生圃場率は33.3%(48.1%)であった。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容
- 発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
- 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は10.7%(6.0%)、発生圃場率は75.0%(51.6%)であった。

3. 褐斑病

- (1) 予報内容
- 発生程度 多
- (2) 予報の根拠
- 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は13.1%(2.3%)、発生圃場率は58.3%(27.4%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。
- イ 薬剤耐性菌を生じる恐れがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- ウ 多湿条件では発生を助長するので、換気に注意し、できるだけ室温を30以下に下げる。

4. 灰色かび病

- (1) 予報内容
- 発生程度 並
- (2) 予報の根拠
- 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.2%(0.5%)、発生圃場率は16.7%(18.6%)であった。

5. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容
- 発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
- 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は3.5%(1.8%)、発生圃場率は50.0%(30.5%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
- 早期発見につとめ、初期防除を徹底する。

6. コナジラミ類(外コナジラミ類、内コナジラミ)

- (1) 予報内容
- 発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
- 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は6.3%(1.6%)、発生圃場率は33.3%(26.3%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア 発生が多くなるとすす病の原因となるので、発生初期に防除する。
- イ 薬剤抵抗性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

たまねぎ

1. 白色疫病

- (1) 予報内容
- 発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（15筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.2%、発生圃場率3.3%）。

2. ボトリチス葉枯症

（1）予報内容

発生程度 少

（2）予報の根拠

3月上旬の巡回調査（15筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率1.0%、発生圃場率10.8%）。

3. ネギアザミウマ

（1）予報内容

発生程度 やや多

（2）予報の根拠

3月上旬の巡回調査（15筆）の結果、寄生株率は44.0%（23.4%）、発生圃場率は100%（72.9%）であった。

（3）防除上注意すべき事項

薬剤がかかりにくい葉と葉の隙間に寄生しているので、薬剤は丁寧に散布する。

いちご

1. うどんこ病

（1）予報内容

発生程度 少

（2）予報の根拠

3月上旬の巡回調査（26筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.3%、発病果率0.1%、発生圃場率8.4%）。

2. 灰色かび病

（1）予報内容

発生程度 少

（2）予報の根拠

3月上旬の巡回調査（26筆）の結果、発病果率は0.0%（0.2%）、発生圃場率3.8%（19.7%）であった。

3. アブラムシ類

（1）予報内容

発生程度 やや少

（2）予報の根拠

3月上旬の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は0.1%（1.3%）、発生圃場率は7.7%（10.8%）であった。

4. ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）

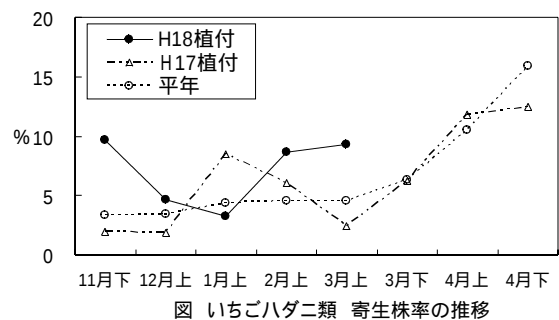
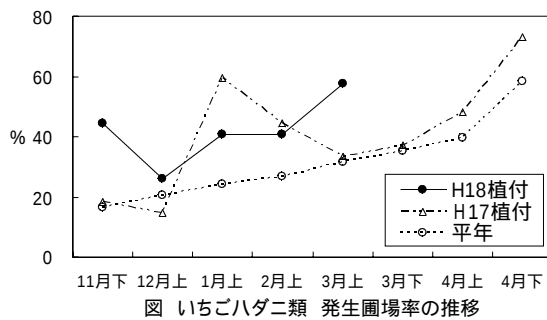
平成19年2月14日付け、**病害虫発生予察注意報第11号**を継続

（1）予報内容

発生程度 多

（2）予報の根拠

3月上旬の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は9.3%（4.5%）、発生圃場率は57.7%（31.7%）であった。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤散布は下葉かき等、古葉の整理を行い、散布むらがおこらないように、十分量を丁寧に散布する。
- イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

かんきつ

1. かいよう病

平成18年度病害虫発生予察防除情報第12号による。

2. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率1.8%)。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率3.2%(2.9%)、発生圃場率41.0%(30.3%)であった。

果樹共通

クワゴマダラヒトリ

平成18年度病害虫発生予察防除情報第13号による。

茶

カンザワハダニ

平成18年度病害虫発生予察注意報第12号による。